

つれづれなるままに 第16号

令和2年7月13日（月）発行



校長 深谷 浩一

中央， 2年連続コールド発進！ ～ 1回の猛攻，一挙7点先制！～



今年の高校野球県大会はコロナウイルス感染防止の影響で全国大会が中止となり，甲子園大会にはつながらない県独自の大会を開催することになりました。

本校は，1回戦が7月12日（日），ノールホーム水戸で行われた，笠間高校戦で開幕しました。試合の流れについて，

5回表，主将小松崎（3年）のセンター前二塁打
と思います。

本校の攻撃を中心にして，振り返ってみたい

先攻の中央は，1回から爆発的な破壊力を示しました。1番キャプテンの小松崎（3年）がいきなり右中間に三塁打すると，続く阿野田（3年）がセンター前ヒットで労せずして1点先制。3番高野，4番金敷が凡退している間に，阿野田は二盗，三盗を決めました。ここから5番青木，6番菊池，7番身内，8番柴田が連続安打。さらに続く9番，ピッチャーの関口までヒットが飛び出し，大量6点のリード。打席は二順目に入り，再び小松崎に打席が回ると，早くもこの日2本目のピットを放ち，7点目を挙げ，試合の流れを決定付けました。

その裏、先発の関口（3年）はヒットを浴びて2点を失ったものの、2回以降は制球良く、4回まで零点に抑えました。

3回にはセーフティバントや盗塁で相手を翻弄して、3番高野と4番金敷のヒットなどで3点を挙げ、続く4回に4点、5回にも大量7点を挙げて21対2の大差でのコールド勝ち。

エースの野口（3年）は5回1アウトからマウンドに上がり、見事凡退に抑えてゲームセット。終わってみれば、24安打、21得点を挙げて5回コールドで初戦を飾ったのでした。

次の水戸啓明戦でも思う存分闘ってほしいと願っています。（おわり）



保護者のスタンドに応援の感謝をする中央ナイン